

# 情報処理学会東北支部 平成28年度 支部報告会

日時 : 平成28年6月22日(水) 12:30~14:00

場所 : 東北大学 工学部 電子情報システム・応物系 1号館 大会議室

住所 : 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-05

## 次第

I 開会

II 支部長挨拶

III 報告

### (表彰)

- |                            |     |
|----------------------------|-----|
| 1. 平成27年度 東北支部学生奨励賞の選考結果報告 | 資料1 |
| 2. 平成27年度 東北支部奨励賞の選考結果報告   | 資料2 |
| 3. 第11回 東北支部野口研究奨励賞の選考結果報告 | 資料3 |
| 4. 平成27年度 東北支部奨励賞 贈呈       |     |
| 5. 第11回 東北支部野口研究奨励賞 贈呈     |     |

### (報告事項)

- |                             |           |
|-----------------------------|-----------|
| 1. 平成27年度活動報告について           | 資料4       |
| 2. 平成27年度決算について             | 資料5       |
| 3. 平成27年度役員改選について           | 資料6, 7, 8 |
| 4. 平成28年度事業計画について           | 資料9       |
| 5. 平成28年度予算について             | 資料10      |
| 6. その他                      |           |
| 1. 平成28年度電気関係学会東北支部連合大会について | 資料11      |

### (学会概況報告)

- |           |      |
|-----------|------|
| 1. 学会概況報告 | 資料12 |
|-----------|------|

IV 閉会

## 情報処理学会東北支部 平成27年度 学生奨励賞 受賞者

**趣旨** 情報処理分野を学ぶ東北地区の学生が、より一層、情報処理分野の勉学に勤しむように奨励する。

**対象** 情報関連学科を持つ大学または高専の卒業年度生で、成績優秀な学生。

(学生奨励賞に関する要項より要約・抜粋)

情報関連学科を持つ主要大学等 15 校に成績優秀者の推薦を依頼したところ、下記 14 名の推薦があった。選考委員会においてメール審議を行い、推薦のあった全ての学生に学生奨励賞を授与することと決定した。

氏名	所属
須藤 若菜	弘前大学 理工学部電子情報工学科
狩野 秀典	秋田大学 工学資源学部情報工学科
菊谷 顕史	秋田県立大学 システム科学技術学部 電子情報システム学科
山下 圏	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科
鈴木 凜	岩手大学 工学部電気電子・情報システム工学科
真壁 大介	山形大学 工学部情報科学科
鈴木 正敏	東北大学 工学部 電気情報物理工学科
佐々木 大雅	東北工業大学 工学部知能エレクトロニクス学科
佐藤 拓也	東北学院大学 工学部電気情報工学科
萱場 啓太	仙台高等専門学校 情報電子システム工学専攻
三浦佑斗	会津大学 コンピュータ理工学部 コンピュータ理工学科
井上 裕輔	日本大学 工学部 情報工学科
天野 崇	福島大学 理工学群 共生システム理工学類
柴田 歩	鶴岡工業高等専門学校 制御情報工学科

# 情報処理学会東北支部 平成27年度 支部奨励賞 受賞者一覧

**趣旨** 情報処理に関する学問，技術の奨励のため，有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

**対象** 支部連合大会および研究会に発表した者で，大学の学部卒業後10年未満，かつ過去に本奨励賞や類似の賞を受賞していない者。

(表彰規定より要約・抜粋)

平成27年8月27日，28日に開催された電気関係学会東北支部連合大会と，平成27年4月～平成28年3月に開催された研究会（計7回）のそれぞれにおいて，座長より合計10件（連合大会より5件，研究会より5件）の推薦があった。

それぞれの推薦論文について事前に有識者による査読を行い，その結果などをもとに平成28年4月27日に開催された選考委員会で審議し，平成28年5月18日に開催された支部運営委員会で，以下の受賞者を決定した。

## 東北支部連合大会

- 菅谷 直登（東北大）  
「リカレントニューラルネットワークに基づく時系列データ誤り訂正技術とその応用」
- 泉 朝子（秋田大）  
「ALOS AVNIR-2 データを用いた八郎湖の水質状況推定に関する研究」
- 伊藤 秀哉（東北大）  
「多視点マルチバンド画像からの3次元復元手法に関する検討」

## 研究会

- 山屋 孝史（秋田大）  
「Fuzzy-ART を用いた適応学習機能を有する表情認識に関する研究」
- 泉谷 豪志（弘前大）  
「四元数の回転を用いた暗号学的ハッシュ関数アルゴリズムに関する研究」

## 情報処理学会東北支部 第11回野口研究奨励賞 受賞者

**趣旨** 優秀な学術論文を出版した東北支部会員の若手研究者に対して賞を授与し、より一層の情報処理分野に関する研究開発を奨励する。

**対象** 過去5年程度以内において、学術雑誌・国際会議予稿集に掲載された論文の主要な著者で、35歳以下の若手研究者。

(野口研究奨励賞の要項より要約・抜粋)

第11回 野口研究奨励賞に1件の応募があり、平成28年4月27日に開催された選考委員会で慎重に審議し、平成28年5月18日に開催された支部運営委員会で、以下の1名を受賞者とすることを決定した。

**受賞者** 上野 知洋 (東北大学大学院 情報科学研究科 博士課程)

**対象論文** Parameterized Design and Evaluation of Bandwidth Compressor for Floating-Point Data Streams in FPGA-based Custom Computing

**著者** Tomohiro Ueno, Yoshiaki Kono, Kentaro Sano, and Satoru Yamamoto

**出典** Reconfigurable Computing: Architectures, Tools and Applications, Lecture Notes in Computer Science, Volume 7806, pp.90-102, Springer, 2013.

# 第 11 回(平成 27 年度)野口研究奨励賞



## 受賞者

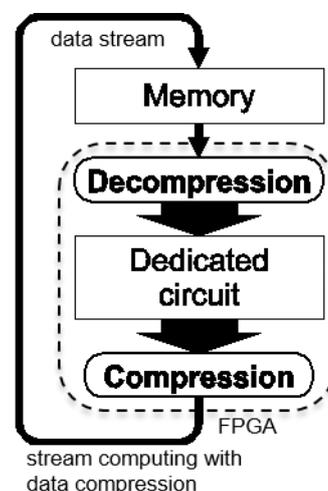
上野知洋 (うえの ともひろ)

東北大学 大学院 情報科学研究科

## [研究概要]

メモリ帯域の不足は、計算機性能を低下させる大きな要因の一つである。計算機システムにおけるメモリ帯域の向上は困難であるため、データ圧縮を用いて物理的な改良なしに実効帯域を向上させる手法が提案されている。これは、高スループットなハードウェア処理により、メモリとプロセッサ間の通信データを圧縮し、実効メモリ帯域を向上させる試みである。特に大規模なデータを用いる数値シミュレーションなどにおいて、メモリ帯域不足を解消し、計算性能の向上手段として期待されている。

今回受賞対象となった論文では、FPGA に実装した専用計算コアを用いたストリーム計算において、数値データストリームを効果的に圧縮するハードウェアのパラメータ化と実機における評価とを行っている。先行研究において提案された数値データ圧縮ハードウェアを、様々なビット幅のデータに対応させて評価を行い、実際の数値計算への適用について考察を行っている。実装したハードウェアは、データのビット幅の増加に伴い回路面積の増加と動作周波数の低下が見られたが、単精度、倍精度データの圧縮についてはいずれも高い性能を示している。また、圧縮性能の評価では、単精度、倍精度ともに汎用の圧縮スキームである bzip2 を超える性能を示している。これらの結果により、提案したハードウェアが小面積かつ高スループットであり、圧縮性能においても数値データの圧縮に適していることが示されている。



## [受賞の感想]

野口研究奨励賞という非常に名誉ある賞を受賞することが出来、大変光栄に存じます。同時に、情報処理学会東北支部の皆様には深く感謝申し上げます。本研究は、佐野健太郎先生、山本悟先生、古澤卓先生による多大なるご指導と、多くの方々のご支援により遂行できたものと思っております。皆様には厚く御礼申し上げます。今後も情報処理分野の発展のため、力を尽くしてまいります。

# 情報処理学会東北支部 平成27年度活動報告

## 1 支部報告会

日程 : 平成27年6月17日(水) 12:30~14:00

会場 : 東北大学工学部電子情報システム・応物系 情報新棟 451,453号室

## 2 委員会等

### 2.1 第1回 幹事会

日時 : 平成28年4月27日(水) 17:00~18:00

会場 : 東北大学 電気通信研究所 本館6階 中会議室

- 議題 :
1. 平成28年度支部役員改選について
  2. 平成27年度支部奨励賞, 支部学生奨励賞, 第11回野口研究奨励賞について
  3. 平成27年度活動報告について
  4. 平成28年度活動計画について
  5. 平成27年度決算について
  6. 平成28年度予算について
  7. その他

### 2.2 第1回 運営委員会

日時 : 平成28年5月18日(水) 16:00~17:00

会場 : 東北大学 電気通信研究所 本館6階 中会議室

- 議題 :
1. 支部役員改選結果報告
  2. 支部長会議, 役員検討会報告
  3. 支部学生奨励賞の受賞者の報告
  4. 支部奨励賞の受賞者の決定について
  5. 第11回 野口研究奨励賞の受賞者の決定について
  6. 平成27年度活動報告について
  7. 平成28年度活動計画について
  8. 平成27年度決算について
  9. 平成28年度予算について
  10. 平成28年度支部報告会について
  11. 平成28年度電気関係学会東北支部連合大会について
  12. その他

### 3 事業計画に基づく事業（行事、表彰等）

#### 3.1 電気関係学会東北支部連合大会

日程 : 平成 27 年 8 月 27 日（木）, 28 日（金）  
会場 : 岩手県立大学  
一般講演 : 225 件  
参加者数 : 述べ 450 名  
特別講演  
日時 : 平成 27 年 8 月 27 日（木） 15:30～17:00  
場所 : 共通講義棟 1 階講堂  
講師 : 鈴木 厚人 氏（岩手県立大学学長）  
演題 : 「国際リニアコライダー（ILC）計画とその実現にむけて」

#### 3.2 研究講演会

今年度は 4 回開催した。

- 情報処理学会東北支部 特別講演会（第 371 回研究講演会）  
日時 : 平成 27 年 6 月 17 日（水） 14:40～16:10  
会場 : 東北大学工学部電子情報システム・応物系 101 大講義室  
講師 : 手塚 大 氏（(株)日立ソリューションズ東日本 研究開発部 部長）  
演題 : 「SCM (Supply Chain Management) を支える情報技術」  
参加者 : 200 名
- 第 372 回研究講演会  
日時 : 平成 27 年 11 月 20 日（水） 15:00～16:30  
会場 : 東北大学 電気通信研究所 本館 4 階 M431(ゼミ室)  
講師 : Prof. Dieter Gollmann(Hamburg University of Technology, Germany)  
演題 : 「Cyber-physical System Security」  
参加者 : 30 名
- 第 373 回研究講演会  
日程 : 平成 27 年 12 月 24 日（木） 9:00～10:00  
会場 : 弘前大学理工学部第 1 号館 5 階 10 番 講義室  
講師 : 反町 亨 氏（三菱電機(株) 情報技術総合研究所主席研究員）  
演題 : 「セキュリティ技術トピックス」  
参加者数 : 60 名
- 第 374 回研究講演会  
日程 : 平成 28 年 1 月 25 日（月） 16:00～17:30  
会場 : 岩手県立大学アイーナキャンパス学習室 4  
講師 : 鈴木 克明 氏（熊本大学大学院社会文化科学研究科 教授システム学専攻長・教授）  
演題 : 「大学院における e ラーニング, 理論と実践」

### 3.3 研究会

今年度は7回開催した。

- 平成27度 第1回研究会  
日程 : 平成27年12月1日(月)～2日(火)  
会場 : 放送大学秋田学習センター 講義室(秋田大学内)  
発表件数 : 16件  
参加者数 : 87名
- 平成27度 第2回研究会  
日程 : 平成27年12月11日(金) 10:10～15:50  
会場 : 八戸工業大学 システム情報工学専門棟1階 I103 講義室  
発表件数 : 12件  
参加者数 : 33名
- 平成27度 第3回研究会  
日程 : 平成27年12月19日(土) 10:30～16:00  
会場 : 岩手大学総合教育研究棟(情報系)1階 ICTプログラミング演習室  
発表件数 : 15件  
参加者数 : 31名
- 平成27度 第4回研究会  
日程 : 平成28年1月30日(土) 12:30～18:00  
会場 : 日本大学工学部 ハットNE 3F (AV 講義室)  
発表件数 : 15件  
参加者数 : 27名
- 平成27度 第5回研究会  
日程 : 平成28年2月10日(水) 10:20～17:40  
会場 : 東北学院大学 泉キャンパス 2号館2階 229教室  
発表件数 : 17件  
参加者数 : 87名
- 平成27度 第6回研究会  
日程 : 平成28年2月19日(金) 9:10～15:50  
会場 : 弘前大学理工学部第1号館5階 10番 講義室  
発表件数 : 20件  
参加者数 : 50名
- 平成27度 第7回研究会  
日程 : 平成28年3月7日(月) 10:50～16:08  
会場 : 山形大学工学部 4号館1階, 116教室, 117教室  
発表件数 : 24件  
参加者数 : 42名

### 3.4 表彰

#### 3.4.1 支部奨励賞

5名が受賞した。

#### 3.4.2 支部学生奨励賞

以下の14名が受賞した。

氏名	所属
須藤 若菜	弘前大学 理工学部電子情報工学科
狩野 秀典	秋田大学 工学資源学部情報工学科
菊谷 顕史	秋田県立大学 システム科学技術学部 電子情報システム学科
山下 圏	岩手県立大学 ソフトウェア情報学部ソフトウェア情報学科
鈴木 凜	岩手大学 工学部電気電子・情報システム工学科
真壁 大介	山形大学 工学部情報科学科
鈴木 正敏	東北大学 工学部 電気情報物理工学科
佐々木 大雅	東北工業大学 工学部知能エレクトロニクス学科
佐藤 拓也	東北学院大学 工学部電気情報工学科
萱場 啓太	仙台高等専門学校 情報電子システム工学専攻
三浦佑斗	会津大学 コンピュータ理工学部 コンピュータ理工学科
井上 裕輔	日本大学 工学部 情報工学科
天野 崇	福島大学 理工学群 共生システム理工学類
柴田 歩	鶴岡工業高等専門学校 制御情報工学科

#### 3.4.3 野口研究奨励賞

1名が受賞した。

### 3.5 支部だよりの発行

第235号および第236号を発行。

## 4 その他特記事項等

### 4.1 後援

- 子ども科学キャンパス

日時 : 平成26年7月29日～30日, 10月13日～14日

場所 : 東北大学創造工学センター「発明工房」

主催 : 東北大学, 仙台市教育委員会

- たのしいサイエンス・サマースクール
  - 日時 : 平成 27 年 8 月 4 日～6 日
  - 場所 : 東北大学創造工学センター「発明工房」
  - 主催 : たのしい科学企画委員会
  
- 東北大学電気通信研究所一般公開 2015
  - 日時 : 平成 27 年 10 月 10 日～11 日
  - 場所 : 東北大学 電気通信研究所
  - 主催 : 東北大学 電気通信研究所
  
- MATLAB による大規模データ解析と高速化セミナー
  - 日時 : 平成 27 年 10 月 22 日
  - 場所 : 東北大学 青葉山キャンパス情報科学研究科大講義室
  - 主催 : MathWorks Japan
  - 共催 : 東北大学大学院情報科学研究科、NVIDIA Japan
  
- 中学生のためのコンピュータ・グラフィクス講座
  - 日時 : 平成 27 年 12 月 24 日～25 日
  - 場所 : 東北大学 サイバーサイエンスセンター
  - 主催 : 東北大学 サイバーサイエンスセンター
  
- 平成 28 年東北地区若手研究者研究発表会
  - 日時 : 平成 28 年 3 月 1 日
  - 場所 : 日本大学工学部 70 号館
  - 主催 : 東北地区若手研究者研究発表会  
「音・光・電波・エネルギー・システムとその応用」

## 情報処理学会東北支部 平成27年度決算

## ■収入

収入	予算	決算	決算-予算
本部からの繰入相当額	1,775,000	1,789,000	14,000
支部交付金相当額	1,775,000	1,789,000	14,000
事業収入	0	0	0
支部大会	0	0	0
講演会	0	0	0
研究会	0	0	0
連合大会	0	0	0
補助金収入	50,000	50,000	0
野口正一氏からの補助・助成	50,000	50,000	0
雑収入(利息等)	30	32	2
当期収入合計(A)	1,825,030	1,839,032	14,002

## ■支出

支出	予算	決算	予算-決算
事業費	1,370,000	937,823	432,177
講演会	300,000	174,046	125,954
研究会	300,000	99,442	200,558
支部表彰	310,000	304,335	5,665
連合大会(分担金)	310,000	310,000	0
連合大会(運営費)	0	0	0
セミナー支援	150,000	50,000	100,000
管理費	480,000	85,000	395,000
役員会・幹事会	230,000	3,100	226,900
支部報告会	0	81,900	-81,900
広報・アルバイト	240,000	0	240,000
雑費	10,000	0	10,000
予備費等(任意)	0	0	0
当期支出合計(C)	1,850,000	1,022,823	827,177

## ■収支

収支	予算	決算	決算-予算
当期収支差額(A-C)	-24,970	816,209	841,179

## 平成27年度 情報処理学会東北支部 運営委員 名簿

2015.7.1 現在

役職		氏名	前任者	所属	備考
支部長		大堀 淳	小林 広明	東北大学電気通信研究所	
庶務幹事	新	島崎 聡	伊藤 輝樹	富士通(株)東北支社	
		北形 元	滝沢 寛之	東北大学電気通信研究所	
会計幹事		瀬沼 宏之	再任	日本電気(株)東北支社	
	新	江川 隆輔	青木 輝勝	東北大学サイバーサイエンスセンター	
広報幹事	新	手塚 大	庄司 貞雄	(株)日立ソリューションズ東日本	
		鈴木 健一	岡崎 直観	東北工業大学工学部情報通信工学科	
支部委員		小林 広明	木下 哲男	東北大学サイバーサイエンスセンター	前支部長枠
		滝沢 寛之	菅沼 拓夫	東北大学大学院情報科学研究科	前庶務幹事枠
	新	青木 輝勝	佐野健太郎	東北大学未来科学技術共同研究センター	前会計幹事枠
		関口 理恵	再任	NECソリューションイノベータ株式会社	
		伊藤 政彦	菊地 正衡	(株)NTTデータ東北	
		長瀬 智行	斎藤 稔	弘前大学大学院理工学研究科電子情報システム工学専攻	
	新	清水 能理	山口 広行	八戸工業大学 工学部 システム情報工学科	
		景山 陽一	再任	秋田大学大学院工学資源学研究科情報工学専攻	
		猿田 和樹	再任	秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科	
		木村 彰男	平山 貴司	岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科	
		布川 博士	再任	岩手県立大学ソフトウェア情報学部	
	新	小坂 哲夫	横山 晶一	山形大学大学院理工学研究科	
		菅沼 拓夫	水木 敬明	東北大学サイバーサイエンスセンター	
		岩谷 幸雄	岩本 正敏	東北学院大学工学部	
		速水 健一	再任	仙台高等専門学校情報電子システム工学専攻	
		奥山 祐市	成瀬 継太郎	会津大学コンピュータ理工学部	
		大山 勝徳	山本 哲男	日本大学工学部情報工学科	
		佐藤 恭史	阿部 伸也	(株)富士通システムズ・イースト 東北支社	
		富樫 敦	再任	宮城大学事業構想学部デザイン情報学科	

## 情報処理学会東北支部 平成28年度 支部運営委員改選結果

平成28年3月16日付で、本部事務局より大堀支部長へ平成28年度支部運営委員改選結果が通知された（2016情処総第46号）。

改選結果の詳細は以下のとおりである。

投票用紙発送数 : 504 件  
(1月現在会費納入済の正会員および名誉会員)  
投票数 : 116 票  
投票率 : 23.1%

開票結果

役職	候補者 氏名	結果
支部長	菅沼 拓夫	当選
庶務幹事	阿部 亨	当選
会計幹事	瀬沼 宏之	当選
広報幹事	夏井 雅典	当選

## 平成28年度 情報処理学会東北支部 運営委員 名簿

2016.5.9 現在

役職		氏名	前任者	所属	備考
支部長	新	菅沼 拓夫	大堀 淳	東北大学サイバーサイエンスセンター	
庶務幹事		島崎 聡	伊藤 輝樹	富士通(株)東北支社	
	新	阿部 亨	北形 元	東北大学サイバーサイエンスセンター	
会計幹事	新	瀬沼 宏之	再任	日本電気(株)東北支社	
		江川 隆輔	青木 輝勝	東北大学サイバーサイエンスセンター	
広報幹事		手塚 大	庄司 貞雄	(株)日立ソリューションズ東日本	
	新	夏井 雅典	鈴木 健一	東北大学電気通信研究所	
支部委員	新	大堀 淳	小林 広明	東北大学電気通信研究所	前支部長枠
	新	北形 元	滝沢 寛之	東北大学電気通信研究所	前庶務幹事枠
		青木 輝勝	佐野健太郎	東北大学未来科学技術共同研究センター	前会計幹事枠
		関口 理恵	再任	NECソリューションイノベータ株式会社	
	新	伊藤 政彦	再任	(株)NTTデータ東北	
	新	長瀬 智行	再任	弘前大学大学院理工学研究科電子情報システム工学専攻	
		清水 能理	山口 広行	八戸工業大学 工学部 システム情報工学科	
	新	景山 陽一	再任	秋田大学大学院理工学研究科	
	新	猿田 和樹	再任	秋田県立大学システム科学技術学部電子情報システム学科	
		木村 彰男	平山 貴司	岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科	
	新	布川 博士	再任	岩手県立大学ソフトウェア情報学部	
		小坂 哲夫	横山 晶一	山形大学大学院理工学研究科	
	新	鈴木 健一	再任	東北工業大学工学部情報通信工学科	
	新	岩谷 幸雄	再任	東北学院大学工学部	
		速水 健一	再任	仙台高等専門学校情報電子システム工学専攻	
	新	奥山 祐市	再任	会津大学コンピュータ理工学部	
新	上田 清志	大山 勝徳	日本大学工学部情報工学科	H28新任	
新	萩生田 善之	佐藤 恭史	(株)富士通システムズ・イースト 東北支社	H28新任	
	富樫 敦	再任	宮城大学事業構想学部デザイン情報学科		

## 平成28年度活動計画

**1 支部報告会**

日程 : 平成28年6月22日(水) 12:30~14:00

会場 : 東北大学工学部電子情報システム・応物系1号館2階 大会議室

**2 委員会等**

運営委員会 : 1~2回程度開催予定

幹事会 : 1~2回程度開催予定

**3 各種事業(行事、表彰等)**

電気関係学会東北支部連合大会 : 8月30日~31日開催予定

研究講演会 : 6回程度開催予定

研究会 : 8回程度開催予定

支部奨励賞 : 5名程度表彰予定

支部学生奨励賞 : 15名程度表彰予定

支部野口研究奨励賞 : 1名程度表彰予定

後援・協賛 : 子ども科学キャンパス

たのしいサイエンスサマースクール

東北大学電気通信研究所一般公開

中学生のためのコンピュータ・グラフィクス講座

東北地区若手研究者研究発表会

## 情報処理学会東北支部 平成28年度予算

## ■収入

収入	平成27年度		平成28年度
	予算	決算	予算
本部からの繰入相当額	1,775,000	1,789,000	1,900,000
支部交付金相当額	1,775,000	1,789,000	1,900,000
事業収入	0	0	3,750,050
支部大会	0	0	0
講演会	0	0	0
研究会	0	0	0
連合大会	0	0	3,750,050
補助金収入	50,000	50,000	50,000
野口正一氏からの補助・助成	50,000	50,000	50,000
雑収入(利息等)	30	32	50
当期収入合計(A)	1,825,030	1,839,032	5,700,100

## ■支出

支出	平成27年度		平成28年度
	予算	決算	予算
事業費	1,370,000	937,823	5,220,050
講演会	300,000	174,046	330,000
研究会	300,000	99,442	320,000
支部表彰	310,000	304,335	360,000
連合大会(分担金)	310,000	310,000	310,000
連合大会(運営費)	0	0	3,750,050
セミナー支援	150,000	50,000	150,000
管理費	480,000	85,000	480,050
役員会・幹事会	230,000	3,100	140,000
支部報告会	0	81,900	90,000
広報・アルバイト	240,000	0	240,000
雑費	10,000	0	10,050
予備費等(任意)	0	0	0
当期支出合計(C)	1,850,000	1,022,823	5,700,100

## ■収支

支出	平成27年度		平成28年度
	予算	決算	予算
当期収支差額(A-C)	-24,970	816,209	0

# 平成28年度 電気関係学会東北支部連合大会 実施計画

## 1 実施計画の概要

- 主催学会 : 電気学会, 電子情報通信学会, 照明学会, 日本音響学会  
映像情報メディア学会, 情報処理学会, 電気設備学会 (各東北支部)  
IEEE Sendai Section
- 幹事学会 : 情報処理学会東北支部
- 大会期日 : 平成28年8月30日(火)～31日(水)
- 大会会場 : 東北工業大学 八木山キャンパス  
(〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1)

## 2 大会日程

日程	月日	内容		
第1日目	8月30日(火)	午前	一般講演	展示会
		午後	一般講演 特別講演 (夜:懇親会)	
第2日目	8月31日(水)	午前	一般講演	展示会
		午後	一般講演	

## 3 一般講演

- 日時 : 8月30日(火) 9:00～15:00  
8月31日(水) 9:00～17:00
- 会場 : 東北工業大学 八木山キャンパス
- 講演内容 : 各専門分野で最近行った研究の発表, 各専門分野で最近行った工事報告, 現場実験報告, 新製品の紹介等
- 申込・原稿締切日 : 6月20日(月) 必着厳守 (申込書と原稿を同時締切とします。)

## 4 特別講演

- 日時 : 8月30日(火) 15:30～17:00
- 会場 : 東北工業大学 八木山キャンパス 9号館 937教室
- 講師 : 岩崎 俊一 氏 (東北工業大学名誉理事長)
- 演題 : (未定)

## 5 展示会（製品カタログ展示）

日時 : 8月30日（火）9:00～15:00  
8月31日（水）9:00～15:00  
会場 : 東北工業大学 八木山キャンパス

## 6 講習会

日時 : 8月30日（火）または31日（水）  
会場 : 東北工業大学 八木山キャンパス  
内容 : 英語論文執筆に関する講習会

## 7 企業企画セッション

日時 : 一般講演枠内で実施  
会場 : 東北工業大学 八木山キャンパス  
趣旨 : 大学・高専等に所属する学生・若手研究者に対して企業を知る機会を与えるとともに、産学の接点を作り出すことで東北地域の電気・電子・情報・通信等の関係分野の発展に寄与することを目的とする。

## 8 懇親会

日時 : 8月30日（火）18:00～20:00  
場所 : ホテルメトロポリタン仙台  
会費 : 一般 : 5,000円（事前支払）、5,500円（当日支払）  
学生 : 3,000円（事前支払）、3,500円（当日支払）

# 平成 28 年度 電気関係学会 東北支部連合大会

2016 Tohoku-Section Joint Convention of Institutes  
of Electrical and Information Engineers, Japan

トップページ

開催案内/講演募集

講演申込/投稿

大会プログラム

予稿の書き方

表彰について  
(若手発表者の方へ)

聴講参加申込/懇親会申込

特別講演会・懇親会

会場・交通アクセスについて  
観光情報案内

企業企画セッションについて

広告掲載・展示会出展のご案内

協力企業一覧

規約

## 準備経過と予定

3月3日  
役員会で期日・場所等を確定  
5月13日  
講演申込受付開始  
6月24日  
講演申込締切  
7月下旬  
プログラム公開  
8月30・31日  
大会開催

電気関係学会東北支部連合事務局

期 日：平成28年8月30日(火)・31日(水)

会 場：[東北工業大学八木山キャンパス](#)

(仙台市太白区八木山香澄町35-1)



主催：

電気学会、電子情報通信学会、照明学会、  
日本音響学会、映像情報メディア学会、  
情報処理学会、電気設備学会(各東北支部)、  
[IEEE \(Sendai Section\)](#)

共催：[東北工業大学](#)

## Information

16/06/20

講演申込/投稿締切を6月24日(金)17:00まで延長いたしました。

16/06/03

広告掲載・展示会出展のご案内を掲載いたしました。

16/05/26

企業企画セッションの募集についてのご案内を掲載いたしました。

16/05/13

講演申込/投稿を本日より受付開始いたしました。  
※講演申込/投稿締切：6月20日(月)17:00

聴講ならびに懇親会の事前申込についても本日より受付を  
開始いたしました。

※事前申込締切：8月19日(金)23:59

16/04/28

大会HP公開いたしました。  
講演申込/投稿は5月13日(金)より受付開始予定です。

問合せ先：電気関係学会東北支部連合事務局

E-mail: [rengojimu@ecei.tohoku.ac.jp](mailto:rengojimu@ecei.tohoku.ac.jp)

# 2015 年度 事業報告

## 1. 概況および重点活動

少子高齢化、IT技術のコモディティー化、グローバル競争の激化などの流れの中で正会員数や収入の継続的減少が続く一方、ICTの急速な進化が社会に大きなインパクトを与えるようになっており、本学会の果たすべき役割はますます広がっている。会長交代の年度となる本年度はこれまで推進してきた学会の抜本的改革を継続しつつ、長期的視点に立って安定した学会運営を実現するための施策の検討に取り組んだ。その結果、今後の会員獲得や学会価値向上に結びつく期待されるジュニア会員制度や認定情報技術者制度を立ち上げた。しかしながら正会員の減少傾向に歯止めをかけるには至らず、本年度の個人会員数は減少となった。この結果を受け、会員数減の要因分析・中長期計画の具体化・学会システムの刷新ロードマップの策定などが進みつつある。また、調査研究活動、学会誌の発行、論文誌編集活動、学術講習会の開催、標準化活動においても、新たな取り組みに挑戦しつつ、例年通りの成果を上げている。財務的には、いくつかの新たな取り組みを行ったが、種々のコスト削減の施策を行い、当年度黒字を達成した。

特筆すべき改革や成果としては、下記のものあげられる。

学生無料トライアル制度を発展させ、小学生から大学3年生までを対象としたジュニア会員制度を開始した。ジュニア会員数は2016年3月末現在で668名にのぼり、うち小中高生は182名を占めている。

- 実務家、ITプロフェッショナル向け新サービスである認定情報技術者制度（CITP）において個人認証では新たに243名（個人からの登録13名、認定企業からの登録230名）の認定情報処理技術者が誕生した。また企業認定の本運用も開始され、昨年度認定された5社に加えて今年度は新たに2社の社内資格制度を審査中である。
- 長期戦略理事が中心となり、2年の理事任期を超えた中長期戦略の具体化が開始された。各分野において目標、指標、計画を具体化するという形でブレークダウンが進んでいる。
- 女性会員増を目指し、まず女性理事増を実現するための取り組みを行った。会誌編集委員会女子部でも、学会の理事会・委員会の取材記事を掲載し、女性の視点から学会を紹介する取り組みを進めた。女性会員の活躍を支援する「Info-WorkPlace委員会」を理事会の下に発足させた。
- 新世代企画委員会における若手の活発な取り組みを続け、ニコニコ動画との連携や全国大会での「IPSJ-ONE」を継続するほか、学会イベント受付のオンライン化の試行を行った。また、ニコニコとの連携の第二弾としてニコニコ動画での学会コンテンツ（論文と会誌の記事）の販売を開始した。
- 学会情報システムの刷新に向けた現状調査を実施するとともに、イベント・シンポジウム・支部・研究会のシステムの統合も含めたロードマップを策定した。
- 会員数の現状を詳細分析し、年齢別・産学別の状況を明らかにするとともに今後の推移をシミュレーションした。特に減少傾向が著しい産業界に属する正会員への学会価値向上を目指した検討を開始し、学会説明資料の作成や、支部も交えた検討を行った。
- 正会員の減少傾向や今後の増税等の影響を考慮すると、継続的な学会運営と財務基盤の安定のためには27年間据え置かれてきた年会費の見直しが必要になると判断し、年会費改訂の検討に着手した。

この他にも、グローバル化を目指した取り組み、査読システムのリニューアル、電子図書館の企業向けサイトライセンスサービスの開始、国の政策や方針に対する活発なパブリックコメントの発信、国内外学会との連携などで多くの成果が出始めている。

## 1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるために、学会としてのトラディショナルな活動は今までどおり大切にしつつ、新しいアイデアを積極的に取り入れて、学会を柔軟に改革できる運営体制の整備として下記の施策を進めた。

- ① 若い世代の柔軟な発想を学会運営に取り込むべく、「新世代理事」を中心とした新世代企画委員会活動の活性化を推進した。
- ② 「長期戦略理事」を中心に、学会活動の拡大（会員増）、経営（財務）基盤の安定という2つの大きな目標の観点から中長期戦略の検討をすすめた。
- ③ 第三者機関であるアドバイザリボードからの提言を適宜諸事業へ反映した。
- ④ 女性が活躍できる学会を目指し、「Info-WorkPlace 委員会」を立ち上げた。引き続き、女性会員のネットワーク強化、女性を呼び込むためのイベントなど検討を進めていく。
- ⑤ 財務状況の見える化を図り、各事業や情報基盤整備の投資効率を意識した運営の検討をすすめた。

## 1.2 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

- ① 新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」活動を推進し、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む活動を推進した。
- ② 2012年度に導入した「学生無料トライアル会員制度（試行）」を拡充し、小学生から大学学部3年生までがオープンに入会申込できる「ジュニア会員制度（試行）」を実施し若い世代の入会を促進した。本制度は2016年度より本格運用する。
- ③ 研究会や支部などの協力も得て、学生や若手研究者のためのイベントを企画開催した。また、学生や若手を対象とした賞を授与した。

## 1.3 調査研究活動ならびに提言活動の推進

- ① 学会のコアの活動として、研究会による諸活動を推進した。コンピュータサイエンス領域、情報環境領域、メディア知能情報領域の3領域に分けて、領域委員会を3回ずつ開催し、研究会間での情報交換を促した。
- ② 調査研究運営委員会、政策提言委員会、若手研究者の会が連携し、国の政策および方針に関する「世界最先端IT国家創造宣言」、「情報セキュリティ管理基準（改正案）」などに関するパブリックコメント募集に対して、各専門の研究分野と連携して積極的な提言活動を行った。
- ③ 個々の研究会活動を越えて、領域または調査研究全体による活動を支援するために、調査研究活動の積立資金よりプロジェクト（期間2015年11月1日～2016年10月31日）を募集し、国際会議支援、女性研究者支援などの6件（総額122万円）を採択し支援することとした。
- ④ 複数の研究会の共催による「DICOMOシンポジウム」、「Annual Meeting on Advanced Computing System and Infrastructure (ACSI)」、「インタラクション」などを開催した。

## 1.4 グローバル化

- ① 英文論文誌 Journal of Information Processing（以下、JIP）のインパクトファクタ取得について、再申請に向けて諸対応を検討、促進した。トランザクション CVA についてはインパクトファクタの取得の申請手続きを2014年度に行い今年夏頃（Late Summer）には結果がでる予定。
- ② 査読プロセスをグローバルスタンダードに合致させつつ国際会議連携などの自由度を持つものにする必要性と、それを支える査読管理システムの重要性を踏まえ、従来の独自システム PRMS から国際的に広く使われている商用査読管理システム ScholarOne Manuscripts に移行した。
- ③ 研究会活動を中心に、国際会議の主催や共催を推進した。情報環境領域プロジェクトとして、ACM CHI への参加費・旅費の援助を行った。

- ④ IEEE や ACM のようなグローバルトップの国際学会を参考にしつつ、これらとの連携も含めた学会のグローバル運営戦略を検討した。
- ⑤ アジアの関連学会である中国 CCF (China Computer Federation) , 韓国 KIISE (Korean Institute of Information Scientists and Engineers) との中長期的な交流に向けて意見交換や相互訪問を行った。

## 1.5 実務家・ITプロフェッショナル向け活動の強化

- ① 高度IT人材の資格制度である「認定情報技術者 (Certified IT Professional : 略称 CITP) 制度」について、企業の社内資格制度を対象とする認証審査 (認定情報技術者 (企業認定) 制度) の本運用を開始した。本年度の新たな登録者は243名 (個人からの登録13名, 認定企業からの登録230名) , 累計では企業認定5社とCITP保持者295名となった。
- ② ソフトウェアジャパン, デジタルプラクティス, 連続セミナー・短期集中セミナー, ITフォーラムなど, 各種の実務家・ITプロフェッショナル向け活動を通じて集客に貢献した。
- ③ 情報処理推進機構 (IPA), 情報サービス産業協会 (JISA), 日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS), 電子情報技術産業協会 (JEITA), 科学技術振興機構 (JST), 先端 IT 活用推進コンソーシアム (AITC) などの実務家・ITプロフェッショナルを対象とする団体との連携をさらに深め, 共同イベントの開催などを推進した。

## 1.6 教育活動の充実

初等中等教育, 専門学校そして大学などにおける情報教育, および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて, 以下の施策を実施した。

- ① 情報教育カリキュラムの策定
- ② アクレディテーション (教育機関における技術者教育プログラムの認定, JABEE からの委託)
- ③ 高校教科「情報」の教員免許更新講習会の開催
- ④ 大学入試における「情報」科目提言, 大学情報入試全国模擬試験実施
- ⑤ 教育シンポジウム・コンテストの運営と後援

## 1.7 会員サービスおよび広報の充実

- ① オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進, 電子図書館のサイトライセンスサービス, 会誌並びにデジタルプラクティスの App Store 掲載など, 新しいサービス提供形態を推進した。
- ② 昨年度 4 月より開始した大学向けサイトライセンスサービスに引き続き, 今年度 4 月からは企業向けサイトライセンスサービスも開始し 50 機関 (43 校, 7 社) へのサービス提供を行った。
- ③ シニア会員制度を継続して行い, 今年度は 94 名のシニア会員を登録した。

## 1.8 学会システムの拡充

- ① 外部へのアウトソースを含めた学会システム全体の俯瞰図および一覧表を作成し, 今後の学会システムの開発ロードマップを策定した。
- ② ハードウェア老朽化対策として, マネジメントシステムを仮想化した。
- ③ マネジメントシステムにジュニア会員制度対応の機能追加を行った。
- ④ 研究会および支部システムの集約に向け, 関係者へのヒアリングを実施し, これらの集約に向けた共通基盤システムの試行を開始した。
- ⑤ 新世代企画委員会と連携し, イベント・シンポジウム等受付システムのオンライン化を試行した。

# 2016 年度 事業計画書

## 1. 概況および重点活動

情報処理技術の急激な普及に伴い、誰もがインターネットを通じて世界中の情報に瞬時に接することができるようになる一方、学生の情報離れが危惧され、会員数や収入の継続的減少に悩んでいる学協会が多い。情報処理分野における技術イノベーションをリードする立場として、本学会の果たすべき役割は大きく、これまで抜本的改革を進めてきた。

学会価値の向上と会員向けサービスの向上を図ることを目指し、若い世代の会員を増やすため昨年度試行運用したジュニア会員制度を本格的に導入する。さらに企業に所属する会員数の増加にも取り組む必要がある。学生から社会人を含めた若い世代が関心を持つサービス・コンテンツの提供など、さらなる取り組みを進める。端緒について実務家や IT プロフェッショナルに対する活動をさらに拡充し、情報処理分野の学術研究の発展を支援する会員向け活動と併せ、魅力のある学会を目指して中長期的視野で学会のさらなる活性化を実現していく。

本年度はこれまで推進してきた学会の改革を継続し、学会情報システムの拡充、新世代企画委員会の活用による新たな活動の推進、中長期戦略の維持発展、小中高生にまで範囲を広げた会員制度の拡充、教育・調査研究等の諸活動の推進と社会への提言・情報発信、グローバル化、高度 IT 人材の資格制度の強化、会員サービスの拡充において、下記を中心とする施策を実施する。さらに学会における女性の活躍について必要な議論の場として「Info-WorkPlace 委員会」を活用し、女性会員のネットワーク強化、女性が参加しやすいイベント企画など検討を進めていく。

また、2016 年 4 月に起こった熊本地震により被災された方々、そのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げますと共に一日も早い復興を願い、会員皆様への会長メッセージの発信、熊本県・大分県に在住の会員様への会費減免等、本会としてもそのための支援をしていきたいと考えている。

### 1.1 学会運営体制の充実および財政基盤の強化

急激に変化する環境の中で、学会を安定的に運営しつつ、これを発展させるためには、学会としてのトラディショナルな活動は今までどおり大切にしつつ、新しいアイデアを積極的に取り入れて、学会を柔軟に改革できる運営体制が必要である。このため、下記の施策を実施する。

- ① 情報基盤の安定と健全な運用のために学会システムの拡充を図り会員サービスの向上を実現する。
- ② 昨年度策定したロードマップにのっとり、学会運営必要不可欠な情報インフラの整備に着手する。併せてセキュリティ対策の強化や研究会、支部のシステムの統合化も実施する。
- ③ グローバル化を進め教育・調査研究・実施事業等の学会コア活動の充実化と財務の良好なバランスを達成する。
- ④ 新世代企画委員会活動を推進し、そこから生まれた新たなチャネルの活用とともに既存の枠組みを活用し学会の成果を社会に還元する開かれた活動を推進する。
- ⑤ 長期戦略理事を中心に中長期戦略を維持発展させ、新しい会員サービス、学会のビジネスモデルや会誌の出版形態などの諸課題にアプローチする。
- ⑥ 第三者機関であるアドバイザリーボードからの提言を適宜諸事業へ反映する。
- ⑦ 前年度より検討に着手している27年間据え置かれた年会費について改訂の方向で検討をすすめる。
- ⑧ 財務状況の見える化を図るとともにジュニア会員制度を定着・活用し会員数の増加を図り健全な法人運営を行う。

## 1.2 学生・若手研究者育成のための活動および体制強化

- ① 新世代理事を中心とする横串の組織「新世代企画委員会」活動を推進し、新世代（学生・若手研究者・若手技術者）の発想を学会運営に取り込む。
- ② 小中高校生，高専生，大学学部1～3年生を対象とする会費無料の「ジュニア会員制度」を活用し，学生・生徒の育成を支援するとともに，学部4年生以降における有料会員への移行・学会活動の継続を促進する。若いIT人材を育成し日本の将来の成長に資する。
- ③ 研究会や支部などの協力も得て，学生や若手研究者のためのイベントを企画開催する。

## 1.3 調査研究活動ならびに提言活動の推進

- ① 学会のコアの活動として，研究会による諸活動を推進する。
  - (a) 研究会活動を通じた学生会員獲得
  - (b) 研究コミュニティの持続的発展を推進するための体制構築
  - (c) 研究会資料におけるマルチメディアコンテンツ取扱いに向けた検討の継続
- ② 調査研究運営委員会，政策提言委員会，若手研究者の会が連携し，
  - (a) 長期的な研究のグランドデザインやロードマップに関する議論の継続
  - (b) 国の政策および方針に関する各研究分野の積極的な提言活動の推進などを通じて，国および関連機関から「頼られ&相談される学会」を目指す。
- ③ 積立資金によるプロジェクトを募集し，個々の研究会活動を超えて，領域または調査研究全体による国際会議支援，女性研究者支援の活動を活性化する。また，研究会毎の財務の透明化を図り，適切な管理費負担を行う。
- ④ 現在の調査研究活動における研究会やシンポジウムの機会を活用し，異なる領域を統合する新たな研究領域開拓のための取り組み，および，それらを社会へ発信する活動を推進する。

## 1.4 グローバル化

- ① 英文論文誌 Journal of Information Processing（以下，JIP）のインパクトファクタ取得，論文の Citation 増などインパクトファクタ取得のための要件整理と諸対応を明確化し再申請を目指す。トランザクション CVA についてはインパクトファクタの取得を申請中。
- ② 査読プロセスをグローバルスタンダードに合致させつつ国際会議連携などの自由度を持つものにする必要性と，それを支える査読管理システムの重要性を踏まえ，昨年移行した商用査読管理システム ScholarOne Manuscripts の定着と安定的運用を目指す。
- ③ 研究会活動を中心に，国際会議を積極的に主催するとともに，海外学協会との連携を推進する。
- ④ IEEE や ACM のようなグローバルトップの国際学会を参考にしつつ，これらとの連携も含めた学会のグローバル運営戦略を検討し，これを実施する。
- ⑤ 日本に留学生を多く輩出している中国や他のアジア地域などの国々との連携の機会を検討し，これを実施する。
- ⑥ CCF，KIISE との連携を強化し，CJK 連携の活動を検討する。

## 1.5 実務家・ITプロフェッショナル向け活動の強化

- ① 認定情報技術者（Certified IT Professional：略称 CITP）制度について，個人認証制度の本格運用を進めると共に，企業認定の制度についても本格運用を進める。また，IFIP IP3 の認定に向けて申請準備を進める。
- ② ソフトウェアジャパン，デジタルプラクティス，連続セミナー・短期集中セミナー，ITフォーラムなどにより，実務家・ITプロフェッショナルの育成に貢献するとともに，会員増，収入増を図る。
- ③ 情報処理推進機構（IPA），情報サービス産業協会（JISA），日本情報システム・ユーザー協会（JUAS），

電子情報技術産業協会（JEITA）、科学技術振興機構（JST）、先端 IT 活用推進コンソーシアム（AITC）などの実務家・IT プロフェッショナルを対象とする団体や企業との連携をさらに深め、共同イベントの開催などを推進して、会員増に貢献する。

## 1.6 教育活動の充実

初等中等教育、専門学校そして大学などにおける情報教育、および企業の技術者を対象とした教育プログラムの推進に向けて、以下の施策を実施する。

- ① 情報教育カリキュラム J17（試作学習指導要領を含む）の策定
- ② アク্রেディテーション（教育機関における技術者教育プログラムの認定。JABEE からの委託）
- ③ 高校教科「情報」の教員免許更新講習会の開催
- ④ 大学入試における「情報」科目提言、大学情報入試全国模擬試験実施
- ⑤ 教育シンポジウム・コンテストの運営と後援

## 1.7 会員サービスおよび広報の充実

会員サービスの向上および広報宣伝の充実のための諸施策を企画し、会員の目線で、魅力ある学会作りを目指し、必要に応じて会員制度の見直しも検討する。具体的には下記の項目を実施する。

- ① オンライン刊行物の新しいビジネスモデルの推進、マルチメディアコンテンツ配信などの新しいサービス提供形態を推進する。
- ② 2014年度に提携したドワンゴ社のニコニコ動画、ならびに2015年度より論文と会誌記事の販売を開始したニコニコ静画等を活用し、学術コンテンツ（動画や論文など）の新たな流通プラットフォーム構築を推進する。
- ③ [会員のアクティビティの電子的な記録を収集するため、イベント・シンポジウム等申込サイトの試行を継続する。](#)
- ④ 上記①を実現するために、最新CMS（Contents Management System）を採用した研究会・支部システム用共通基盤の[試行に着手する。](#)

## 1.8 学会システムの拡充

2015年度に策定した開発ロードマップに沿って、[各種の業務フローの簡略化を含めた学会情報システムの刷新を進める。](#)これによって、本部事務局・支部・研究会の業務フローの電子化を段階的に実現し、業務効率の改善と会員サービスの向上を実現する。また、個人情報<sup>1</sup>の散在によるセキュリティリスクを低減させる。